

広島市立大学附属図書館報

知 恵 の 樹

growing in OZUKA

あなたはふだんどれくらい本を読みますか？ 映画はよく観ますか？ 美術館へは行きますか？
 学生時代にどれくらいの本、映画、美術作品に出会うことができるか、
 チャレンジしてみませんか？

いちだい知のトライアスロンで



平和を考える



附属図書館、語学センター、芸術資料館は、4月から読書、映画鑑賞、美術館展覧会鑑賞を通じて豊かな教養を身につけることを目指す“いちだい知のトライアスロン”をスタートさせました。

このたび、7月から9月までの期間限定で、平和、戦争、ヒロシマ等に関する作品に取り組むコース「平和を考える」を開設しました。

目標はもちろん完走ですが、まず1冊・1点でもチャレンジして、平和について考えることを始めてみませんか？

コースの内容…

- ・平和・戦争・ヒロシマ等をテーマにした図書、映画、美術館の展覧会に取り組みます。
- ・課題は、推薦図書を含む図書5点以上、映画、展覧会を合わせて合計7点以上。
- ・その中で1点は、感想コメント（400字程度）を書いて提出します。

エントリー・記録…

- ・図書館または、語学センターの窓口で、記録用紙を受け取ってください。
- ・読書・鑑賞が終われば、そのつど記録用紙に感想を記録します。
- ・記録は10月以降、図書館で確認します。期間内に課題をクリアしていれば完走です。
- ★完走した方には**完走証明書**を発行します。
- ★記録用紙は専用HPからダウンロードできます。

コメント投稿…

- ・感想コメントは、窓口で配付する原稿用紙か、HPで投稿してください。⇒P7参照
- ★感想コメントを提出すると、推薦者からメッセージが届くこともあります。
- ★提出された感想コメントはHPで紹介します（匿名です）。
- ★感想コメントはコメント大賞の選考対象になります。

対象資料…

- ・教職員が推薦したもの、または自分で選んだ図書・映画が対象です。
- ・推薦情報は、随時HPで紹介します。詳細はこちらで確認してください。

あなたの感じたこと、
考えたことを素直に文
章にしてみましょう。

推薦図書・映画はこちら…

【 】の中は請求記号です。

『きみたちと現代：生きる意味をもとめて』 宮田光雄著 岩波書店 1980年【159 ㇿ】

宮田光雄氏は、東北大学名誉教授で著名な政治学者（ヨーロッパ政治思想史）であるが、早い時期から学生とともに、読書会を開き、多くの若者と向き合ってきたことでも知られる。その著者が、若き君たちに、そもそも「生きるということ」とは、そして「現代社会に生きるということ」の意味を問い、さらに「平和を創り出す」とはいかなることなのかを、ナチス・ドイツの経験、フランクフルト「夜と霧」、シュヴァイツァー、ガンジー、キング牧師らを例に出して、平易な言葉で綴った渾身の一冊である。若い時代にこうした書に出会えた君は大変幸運であると思う。平易な文章ではあるが、できるだけ一語一語味わって読んでいただきたい。なお、あわせて、同著者の岩波ジュニア新書『生きるということ』もあわせて読むとさらにいいと思われる。

（広島平和研究所 河上暁弘講師）

『悪者見参 ユーゴスラヴィアサッカー戦記』 木村元彦著 集英社 2001年【783.47 ㇿ】

2010年サッカーワールドカップに関心のある方も多いでしょう。今大会には、かつてユーゴスラヴィアを構成していた地域から、セルビアとスロベニアが参加していました。残念ながら一次リーグ敗退でしたが、旧ユーゴスラヴィアのサッカーは、ヨーロッパのブラジルと言われ、知る人ぞ知るサッカー王国だったことを知っていますか？今は存在しないユーゴスラヴィアという国の、コソヴォでは、1999年にNATOによる空爆が行われました。そのとき、サッカー選手たちは何を思い、どう動いたのか。紛争に巻き込まれるとはどういうことなのか。高所にたった記述ではなく、代表選手から、名もなき人の目線からこそ見える「コソヴォ紛争」の内実がここには描かれています。

（国際学部 大庭千恵子教授）

『夕凧の街 桜の国』この史代作 双葉社 2004年【319.8 ㇿ】

いまさら推薦するまでもなく有名な作品で、すでに多くの方が読まれたことがあると思いますが、大学生ぐらいの年代の皆さんにはぜひ読んで欲しい1冊です。

本作は原爆をテーマとした漫画ですが、柔らかなタッチで、ページ数も100ページほどと少ないため気楽に読むことが出来ると思います。本作を読んだ感想というのは、うまく言葉では表現できません。しかし、読んだ後に心の中に残った感情、それを大切にしたい、そんな作品です。

（情報科学研究科 鈴木祐介助教）

『ぼくの描いた戦争』手塚治虫著 ベストセラーズ 2004年

これは手塚治虫が描いた戦争に関連した12の短編漫画を収録した漫画本である。漫画とは言え、一つ一つの作品が、戦争の残酷さと戦争に巻き込まれた人間の様々な精神的苦悩を鋭く描いている傑作である。最後に、手塚自身の空襲体験を文章で綴った「わが思い出の記」が収録されている。

（広島平和研究所 田中利幸教授）

『アメリカの中のヒロシマ』（上・下） R・J・リフトン、G・ミッチェル著、大塚隆訳 岩波書店 1995年【253.07 ㇿ1・2】

戦後のアメリカで、広島・長崎への原爆投下を正当化する議論が、いかに形成され、アメリカの「公式見解」になっていったかを、米国の歴史研究者自身の手で、克明に分析した著作です。

（広島平和研究所 水本和実教授）

『ヒロシマノート』大江健三郎著 岩波書店 1965年【914.6 ㇿ】

著者が1963年夏から1964年末にかけて広島を繰り返し訪問し、「真に広島的な人々」との出会いを通じて書かれたエッセイ集。被爆20年後のヒロシマの叫び、ヒバクシャの苦悩が著者独特の感性と表現で丁寧に描かれている。

プロローグに、自身も被爆者である広島の医師からの手紙が紹介されている。「…広島の間人は、死に直面するまで沈黙したがるのです。自分の生と死とを自分のものにしたい。原水爆反対とか、そういった政治闘争のための参考資料に、自分の悲惨をさらしたくない感情、被爆者であるために、すべてが物乞いをしているとはみられたくない感情があります。（中略）…沈黙することの不可をほとんどあらゆる思想家、文学者が口にして、被爆者に口をわけることをすすめました。わたくしはわたくしたちの沈黙の感情をくめないこれらのひとびとを憎悪していました。（後略）」

ヒロシマについて、被爆者について考える視座を与えてくれる一冊であることは間違いない。本学で学び広島で大学生活を送る人にぜひ一読して欲しい。

なお、同時期の広島を若者の視点から描いた作品「小説吉田拓郎 いつも見ていた広島 ダウンタウンズ物語」田家秀樹（小学館文庫）は、当時の広島の街の空気を知ることができる。吉田拓郎氏の歌碑「今日までそして明日から」が広島修道大学（在学時は広島商科大学）に設けられている。

（情報科学研究科 浅田尚紀教授）

★ここで紹介したのは、ほんの一部です。

図書館のトライアスロンコーナーにも集めていますので、チェックしてみてくださいね。

『二十四の瞳』 壺井栄著

新潮社 2005年【913.6 冊】

この小説は瀬戸内の小島の小学校に新任教師として赴任した若い女性教師と、彼女が受け持った小学校1年生の12人の子供達との出会いとその後の18年間におよぶ教師と子供達とのつながりを描いている。教師が小学校に赴任したのは昭和3年(1928年)、その後、日本は戦争への道を歩み、戦争を始め、やがて原子爆弾の惨禍と共に敗戦を迎える。教師は夫と娘を失くし、教え子には戦場に倒れたものもいれば、戦傷者となったものもいる。

戦争が日常を破壊することは誰でも知っている。しかし、戦争の惨禍を直接経験したことのないものにとっては、日常性の破壊を言葉としてではなく、感覚として理解することは難しい。

「二十四の瞳」は戦争の惨禍を直接、描こうとした小説ではないが、この小説は、戦争の理不尽さ、むごたらしさを読むものに自然に感覚として感じさせる。そして、戦争が人間性の本源に対する罪悪であることを静かに告発している。戦争と平和を考えると、ぜひ、読んでおきたい小説である。

(情報科学研究科 若林真一教授)

【映画】『ヒロシマ ナガサキ』 スティーブン・オカザキ監督 2007年 【V209 冊】

監督は、日系3世の米国人として生まれたスティーブン・オカザキ氏。1991年第二次世界大戦の日系人強制収容を描いた短編ドキュメンタリー『待ちわびる人々』で、アカデミー賞短編ドキュメンタリー部門の受賞もされています。

2007年度に公開された「ヒロシマ ナガサキ」は、日本でも風化されつつ”原爆”について、日系人の立場から14人の被爆者と4人の原爆投下に関与したアメリカ人の証言をまとめ、25年間にかけて完成させたドキュメンタリー映画です。

国籍はアメリカですが、日本の心も持ち合わせた、日系アメリカ人監督ならではの視点で描かれた本作品は、日本の若者が忘れかけている”原爆”について、新たな視点から再考させてくれるドキュメンタリーです。ヒロシマの学生のみなさんには、必見です。

(語学センター語学教務員 伊達美和子)

『私は貝になりたい：あるBC級戦犯の叫び』

加藤哲太郎著 春秋社 2005年【329.67 冊】

何年前かにたて続けにドラマや映画がリメイクされましたが、なんとなく設定を聞きかじっているだけで、きちんと見たことがありませんでした。

この本は原作なんだな、と思いながら読んでみると、実は引用はされているけれど、全く別のものであったことに、まず、驚いてしまいました。

読み進めていくと、あの時代に対しての自分の認識不足を痛感します。

個人的には、最初の1冊にするのはハードルが高い気がしますが、知っておきたい1冊だと思います。

(附属図書館 丸岡)

『アンネの日記』 アンネ・フランク著

文芸春秋 2003年【949.35 冊】

第二次世界大戦中、ドイツ占領下のオランダで、ナチスによるユダヤ人狩から逃れるため2年にもおよぶ“隠れ家”生活を送った少女の、あまりにも有名な日記です。

1942年6月12日から1944年8月1日まで、“キティー”に宛てた手紙として綴られています。

日記の最後が「じゃあまた、アンネ・M・フランクより」と書かれているのが切ないです。彼女はその3日後に密告によりドイツ秘密警察に連行され、ユダヤ人収容所で15歳の短い生涯を終えました。

隠れ家生活という特殊な状況ではあるけれど、10代の少女の他愛ない日常生活が書かれているのですが、時おり記される戦争への恐怖や、戦争が終わり開放される日を待ちわびる気持ちに胸がつまります。戦争、人種差別について考えさせられる本です。

(附属図書館 吉岡)

【映画】『父と暮せば』 黒木和雄監督 2004年

【V778.21 1】

舞台は、被爆から3年後の広島。生き残ったことに罪の意識を持ち、幸せになることをいましめる娘と、娘の幸せを応援する父親の4日間を描いた映画です。

原作は、今年4月に亡くなった日本を代表する戯曲作家の井上ひさし氏。父娘の二人芝居として1994年に初演されています。リアルな映像ではなくセリフで、戦争の理不尽さを考えさせる、そんな映画です。

「言葉」に力があるので、脚本※だけでも読んでみてください。そして機会があれば、劇場で舞台を観ることをお勧めします。また別の魅力が味わえます。

※『父と暮せば』井上ひさし著 新潮社 2001年

(附属図書館 渡辺)

『野火』 大岡昇平著

新潮社 1987年【913.6 冊】

主人公が病気のため所属する中隊を追われるところから、この小説は始まります。舞台は終戦前のフィリピン・レイテ島です。

敗戦間際の異国の戦地で彼が経験することはかなり衝撃的なものですが(本のカバーにもいくつか書かれています)…、それが淡々と綴られていて、そのような過酷な状況が「当たり前」だったのだと思い知らされます。

激しい戦闘シーンなどはあまりありませんが、一人の人間にとっての「戦争」が身に迫ってくる作品です。

(附属図書館 佐伯)

専門的に学ぶにはこちらを！

『戦争文学を読む』川村湊 [ほか] 著
朝日新聞出版 2008年【910.26 加】

この図書は、どのような戦争文学があるか、戦争文学を読もうとするときの道案内をしてくれる。また作品をどのように分類できるのか、体系化を試みている。

「戦争はどのように語られてきたか」（朝日新聞社1999.8）を改題したもの。新たに付章「戦争を知らない世代の戦争文学を読む」が追加されているので、米国同時多発テロ以後の世界の動きの記載もあり、読んでいて新しい。

（附属図書館 田中）

『平和学を学ぶ人のために』君島東彦編
世界思想社 2009年【319.8 平】

ありそうであまりなかった「平和学」の入門書・教科書に当たる作品。編者の君島東彦氏は立命館大学教授（憲法学・平和学）で、NGO「非暴力平和隊」の設立・運営にも関わる理論と実践の第一人者である。本書は、一般市民向けの「作品としての平和学」を目指し、いじめ、子ども兵、ジェンダー、人権、環境、開発、芸術から戦争、軍需産業、核兵器、平和の国際機構論に至るまで、本当に多岐にわたる考察が特徴的である。本書を通じて、「平和学の深さ、鋭さ、温かさ」を感じてもらえることであろう。「平和学」に関心のある人はぜひ本書の一読を薦めたい。

（広島平和研究所 河上暁弘講師）

美術館の展覧会はこちら…

「広島から広島 -ドームが見つめ続けた街-」

会場・会期：広島県立美術館 8月5日(木)～9月20日(月)

★8月22日(日) 14時～ 特別講演会「戦後広島の復興案」（大井健次芸術学部教授）

大井教授、広島県立美術館の松田学芸課長と広島の復興案を作品制作した本学芸術学部の学生達によるトークもあります。（会場：広島県立美術館 地階講堂）

この展覧会は、広島のみちと原爆ドームを、3つの時代の視点から見つめなおそうとするものです。

1つめは、現在の原爆ドームが広島県産業奨励館として建てられた頃の広島。2つめは、被爆後の広島。3つめは、復興期から現在に至るまでの広島です。復興期においては、戦後の広島のみちをどのようなまちにするか、様々な復興案が提案されました。展覧会では、そうした復興案から着想を得た作品を、皆さんと同世代の芸術学部・研究科の学生らが制作・展示します。また、油絵専攻の取り組みとして描かれた、被爆者の方の肖像画「光の肖像」のほか、呉工業高等専門学校による1/10の原爆ドーム模型など、多角的な展示が行われます。広島で芸術を学ぶものとして、広島のみちをどのように捉え、また表現するのか、彼らの創造力が見どころの一つです。

皆さんには、この展覧会の鑑賞を、平和のあり方を創造的に考える機会にしてもらいたいと思います。

（芸術学部非常勤助教・行政課題担当嘱託員 中村圭）

「ふたりの被爆画学生の絵」展 ※他会場のもも対象になります。

会場・会期：本学芸術資料館 8月20日(金)～29日(日)（20日は13時開場.15時(予定)～対談）
※ 旧日銀広島支店 8月10日(火)～17日(火)、9月2日(木)～14日(火) }
浦上天主堂（長崎市）9月下旬から10月

★8月20日(金) 15時(予定) 対談 無言館主 窪島誠一郎氏×広島市立大学芸術資料館長大井健地（国際学部）教授（会場：広島市立大学芸術資料館）

無言館は、第二次世界大戦で没した画学生の慰霊を掲げて作られた美術館で、館主は窪島誠一郎。自らも出征経験を持つ画家の野見山暁治とともに全国を回り、戦没画学生の遺族を訪問して遺作を蒐集。長野県上市市に1997年に開館しました。

今回は、広島と長崎で被爆した画学生の2名の作品約30点を展示します。

本学芸術資料館の他、旧日本銀行広島支店、9月下旬からは長崎の浦上天主堂でも開催し、鎮魂の意を表します。

志半ばで命を絶たれた画学生の絵に思いをはせてみてください。

（芸術資料館学芸員 菊田恵）

★展覧会の期間中は、図書館3階の展示コーナーで、二つの展覧会に関する資料を紹介します。こちらもぜひご利用ください。

いちだい知のトライアスロン

その他のコース

コースの内容…

- ・指定の期間中に指定された点数の読書・映画鑑賞・美術館の展覧会鑑賞にチャレンジします。
- ・コースは、次の中から自分の力にあわせて選択できます。
 - ★印のコースは、映画、美術館展覧会鑑賞も含まれます。
 - ★ スタートアップコース 半年間で推薦図書2点を含む7点以上(本は5冊以上)に挑戦。
 - ★ チャレンジコース 1年間で6ジャンル以上、25点以上(本は20冊以上)に挑戦。
 - ウォーキングコース 1年間で全12ジャンル、各1冊以上の本を読破。
 - マラソンコース 4年間で100冊の本を読破。

期 間 平成23年1月31日(月)まで (マラソンコースは平成26年1月31日まで)

エントリー方法、記録・コメント投稿…

「平和を考える」コースと同じです。

チャレンジするもの…

本・映画

- ・推薦されたものや、自分で選んだものが対象です。
- ★図書館や語学センターの専用コーナーでは随時資料を紹介しています。こちらも参考にしてください。
- ★広島市映像文化ライブラリーでは、名作映画が鑑賞できます。(中区基町3-1 Tel.223-3525)

美術館展覧会

- ・広島市現代美術館、ひろしま美術館、広島県立美術館の3館の特別展と市大芸術資料館の展覧会が対象です。
- ★推薦展覧会の情報は、トライアスロン情報コーナーや、HPでも紹介しています。
- ★ひろしま美術館では、学生証を提示すると、特別展・常設展が無料で観覧できます。



知のトライアスロンコーナー

イベント報告 いちだい知のトライアスロン出張講座 in ひろしま美術館

5月15日(土)、ひろしま美術館(中区基町3番2号)で、特別展「アントワープ王立美術館コレクション展 アンソールからマグリットへ」(4/4~5/28)に合わせた講演会、ギャラリートークを開催しました。(企画・主催:ひろしま美術館・広島市立大学芸術資料館)

参加者は本学学生を中心に約80名。美術館に来館された一般の方も一緒にお話を聞きました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました!

ご講演いただいた関村先生のお話は素人の私にも大変わかりやすく、アンソールの絵画を深く鑑賞できるようになりました。講演の後は学芸員の古谷さんのギャラリートーク。実際にベルギー美術やアンソールの絵画の目にして解説を聞くと、「なるほど!」と思うことがたくさんありました。関村先生のお話と古谷さんのお話を重ね合わせながら、皆でじっくり絵画鑑賞を楽しみました。

(附属図書館 N. M.)



ホームページを使ってみよう!

いちだいのトライアスロンのホームページでは、推薦図書や映画のリスト、コメントを見ることができます。また、読書記録をつけたり、「ちょっと一言」に投稿することもできます。

URL は、<http://triathlon.hiroshima-cu.ac.jp> です。

附属図書館ホームページからもリンクしています。



推薦図書・映画リスト、コメントを見る

ホームページでは、教職員がお薦めする本や映画をリストアップしています。コメントを参考に、読みたい本や観たい映画を見つけてください。



推薦図書・映画index

- [推薦図書・映画一覧](#)
- [推薦者所属別インデックス](#)

[国際学部](#) [情報科学部](#) [芸術学部](#) [広島平和研究所](#) [社会連携センター](#) [附属図書館等](#)

- [ジャンル別インデックス](#)

[思想・哲学・人生論](#) [歴史・文化・伝記](#) [ヒロシマ・平和](#) [社会](#) [学習・教育](#) [自然科学](#) [情報科学・工学](#) [芸術](#) [言語・語学](#)
[文学](#) [随筆・記録](#) [健康・生活](#)

ここをクリック!

推薦図書・映画index

- [推薦図書・映画一覧](#)
 - [推薦者所属別インデックス](#)
- [国際学部](#) [情報科学部](#) [芸術学部](#) [広島平和研究所](#) [社会連携センター](#) [附属図書館等](#)

- [ジャンル別インデックス](#)
- [思想・哲学・人生論](#) [歴史・文化・伝記](#) [ヒロシマ](#)

ここをクリック!

1. 推薦教職員：語学センター職員D 所属：附属図書館等

【映画】ヒロシマ ナガサキ / スティーブ・オカザキ監督
 監督は、日系3世の米国人として生まれたスティーブ・オカザキ氏。1991年第賞短編「キュメンタリー」部門の受賞もされています。2007年度に公開された「ヒロシマ ナガサキ」は、日本でも風化されつつ「原爆」め、25年間で完成させたドキュメンタリー映画です。国籍はアメリカですが、日本の心も持ち合わせた、日系アメリカ人監督ならではの考えられるドキュメンタリーです。ヒロシマの学生のみなさんには、必見です。(登録日 2010年6月15日)

2. 推薦教職員：附属図書館職員H 所属：附属図書館等

百人一語 / 梅原猛 - 朝日新聞社
 先人のことは、これから色々経験しなければならぬ学生の皆さんへの善い『百人一語』は、朝日新聞に1990年から2年半、毎週連載されたもので、古くある思想と、その人がどういう人生だったかまで言及しています。

図書情報

タイトル	【映画】ヒロシマ ナガサキ
作者名等	スティーブ・オカザキ監督
出版者	トランスビュー
ジャンル	ヒロシマ・平和
備考	

推薦教職員：語学センター職員D 所属：附属図書館等

推薦コメント

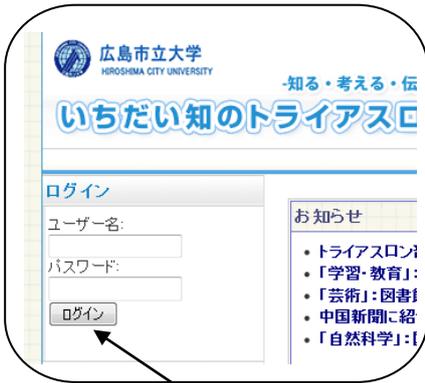
監督は、日系3世の米国人として生まれたスティーブ・オカザキ氏。1991年第二次世界大戦の日系人強制収容を扱った短編「キュメンタリー」待ちわびる人々まで編「キュメンタリー」部門の受賞もされています。2007年度に公開された「ヒロシマ ナガサキ」は、日本でも風化されつつ「原爆」について、日系人の立場から14人の被爆者と4人の原爆投下に関与したアメリカ人の25年間で完成させたドキュメンタリー映画です。国籍はアメリカですが、日本の心も持ち合わせた、日系アメリカ人監督ならではの視点で描かれた本作は、日本の若者が忘れてかかっている「原爆」について、新たな考えられるドキュメンタリーです。ヒロシマの学生のみなさんには、必見です。(登録日 2010年6月15日)

本を読んだら、コメントを投稿しましょう!

本を読んだら、コメントを投稿しましょう。学号番号、タイトル、作者名等と感想コメントを書いて、次のメールアドレスに送ってください。※送信された感想コメントはHPで公開されます。

E-mail: hcu-tri@hiroshima-cu.ac.jp

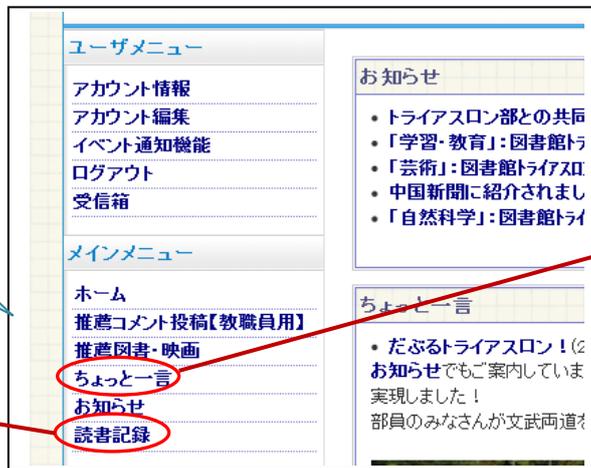
ログインする



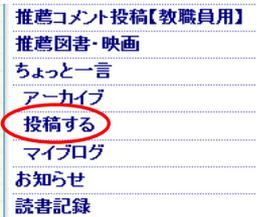
HUNET アカウントとパスワードでログインしてください。
(※HUNET アカウントはメールアドレスの@より前の部分です。)

ログインすると
メニューが増えます。

**読書記録を
つける**



**ちょっと一言に
投稿する**



新規登録

読んだ期間	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>
タイトル	<input type="text"/> <small>推薦図書から選択</small>
作者名等	<input type="text"/>
出版者	<input type="text"/>
コメントの公開の可否	<input type="radio"/> 公開可 <input type="radio"/> 公開不可
感想コメント	<input type="text"/>

30分以内に投稿しない場合無効になりますので注意してください

タイトル

カテゴリ 一担当者約

エントリ本文 BBコード入力リットを表示する

区切り挿入 使い方ヘルプ

オプション

- NOOPSコードを有効にする
- 改行を自動挿入する
- 掲載日を指定する

掲載日 2010 年 06 月 17 日 14 : 10

この記事が承認されたら通知する

トラックバック

リンク先

追加(複数記入する場合は改行で区切ってください)

trackback ping urlの自動取得

いちだい知のトライアスロンのホームページでは、
皆さんのチャレンジをサポートしています。
ぜひご利用ください！

わたしの一冊

情報科学研究科 矢野卓雄 教授

『子どもの幸せにとって「いるもの」「いないもの』』

多湖 輝 新講社 2003年

わたしだけ？ 学生気質の変化が早くなったと感じるのは。
 わたしだけ？ 稚拙な学生、礼儀作法を知らない学生の割合が増えてきたと感じるのは。
 わたしだけ？ 語彙が不足している学生が多く、日本語が通じ難くなったと感じるのは。
 わたしだけ？
 許せ。年を取ると愚痴が多くなる。

本学でも「基礎演習」なる科目が開設された。志願して担当にいただいたが、予想通りなかなか楽しい。多くの学生の目が死んでいる。覇気が無い。彼らの若いエネルギーを吸い尽くしてやろうと臨んだが。「子どもを不幸にするいちばん確実な方法は、いつでも、なんでも手に入れられるようにしてやることである」。わたしの教育がこのようなにならないよう、老体に鞭打って（いやいや鞭は痛いので、酒を浴びて）頑張ってみるか。さてさて、何人の「小原庄助さん」を育てることができか楽しみである。親が子を思うとき、学生が将来を思うとき、教育者が自分の非力に悩むとき、この一冊をお薦めする。

この本は図書館3階にあります。ご利用ください。 <請求記号 367.9 幻 >

● 開館時間の変更について

LOOK HERE !

定期試験前後、夏休み中は開館時間が変わります。
 詳しくは、ホームページの図書館カレンダーでご確認ください。

区分	変更となる期間	開館時間
延長開館期間	7月14日(水)～8月5日(木)	8:45～20:00
夏季休業期間	8月10日(火)～9月30日(木)	8:45～17:00

● 夏季休業期間中の特別貸出について

夏季休業に伴い、7月27日(火)から、図書の貸出期間を延長します(雑誌は除く)。

区分	特別貸出期間	返却期限
学部生	7月27日(火)～9月22日(水)	10月8日(金)
大学院生	7月27日(火)～9月7日(火)	10月8日(金)

● 館内展示のお知らせ

「もっと知りたい! アニメーション」7月12日(月)～28日(水)

「第13回広島国際アニメーションフェスティバル」(8/7～8/11 アステールプラザで開催)に先駆け、広島市立中央図書館(中区基町3番1号)とジョイントして、学生の作品や関連資料を紹介します。

★市立中央図書館では作品の制作過程も紹介しています。こちらもぜひご覧ください。(7/17～7/28)

市大コーナー新着図書

- 『Platon et la question des images』 関村誠著
- 『広島市立大学芸術学部卒業修了作品展 第13回』
- 『Hiroshima City University Inter Media Design 2010 graduation works』
- 『Graduation works 2010』 広島市立大学芸術学部現代表現研究室編集



編集後記

今回は、いちだい知のトライアスロンの夏季限定コース「平和を考える」を中心に、知のトライアスロンを特集しました。

まとまった時間のとれる夏休みは、じっくりと本と向き合うよい機会です。ぜひ、チャレンジしてみてくださいね。

2010年7月1日発行
 広島市立大学附属図書館
 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
 TEL : (082) 830-1508
 FAX : (082) 830-1659
 E-mail tosho@lib.hiroshima-cu.ac.jp
 http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp